

討論メモ

「人口で語る世界史」

令和 6年7月16日

森田晃司

1. 7月は、児玉寛嗣さんに、ポール・モーランドの頭書の題名の著書についての解説をいただきました。

二十世紀以降劇的な人口増加が起こっていますが、人口が歴史を作ってきた過去がること、

人口が軍事力だった時代もあり、中絶は死罪として厳しく禁じた時代もあった。

欧州の人口増が、新大陸への移住など移民を促進した、

先進国では高齢化が進むが、アフリカなど地域によっては平均年齢が若く、地域差がある、

日本では、戦後、平均寿命が大きく伸びたが、一方で高齢化・少子化が進んでいる、

など歴史的事実の背景と要因などを詳しく分析いただいた。

2. 次いで、出席者八名による様々な角度からの意見交換を行い、下記のように

な意見が出されました。

- ・マルサスの「人口論」は怪しい。少なくとも現状では、農業技術の進歩で食糧不足は起こっていない。

- ・農業技術の面からは、現在の十倍の人口に耐えられるという説もある。

- ・一口に 80 億と言っても食事の質は大きな格差がある。どんな食事をするかで必要量も大きく変わるのではないか。

- ・食事の貧しいアフリカで人口が増え、豊かな食事の先進国で人口が減少している。

- ・飛躍的な生産量増加につながった農業革命が産業革命につながり、近代文明へと発展した。農業の革新は極めて重要だ。

- ・平均寿命は長いことがいいことなのか？

- ・中国は国家に蓄えがない。高齢者の年金は厳しい事態になる。

- ・移民政策には賛否両論あるが、経営者か、労働者かなど立場による違いがある。

- ・日本の少子化は長く続くデフレの影響が大きい。

- ・若者にやる気が薄れている。国際教育や詰込みではなくて考える力を伸ばす教育など工夫すべきだ。

- ・海外との取引で英会話ができなくて困った。

- ・海外では、流ちょうな英語を話すより、中身のある人間性が高い評価を受けるのではないか。小学生に生半可な英語教育をするよりも、日本人子弟には日本文化を教えることが大事だ。

- ・AI との会話に於いても、各人の基礎と判断力がしっかりしていないと AI に引っぱき回されることになる。

- ・人口は 80 億の半分でいいのではないか。

- ・EV などが進むと不足する資源も増えるのではないか。

- ・コンゴにおけるコバルトの採掘など、いまだに悲惨な作業が行われているようだ。

- ・人間は地球にとってあまりいい生き物ではないようだ。

- ・人間ばかりが増殖して地球に負担をかけている。

- ・牛、豚、鶏など人間の都合で生殺与奪してきた。

- ・大型哺乳類では人間が、一番数が多いそうだ。

- ・同じ種で殺し合いをするのは、人間だけだそうだ。

.

以上